

話題提供

平田 収正 (大阪大学)

<p style="text-align: center;">薬学教育協議会</p> <p style="text-align: center;">第1回全国薬学教育者アドバンスワークショップ (タスクフォーススキルアップ集会)</p> <p style="text-align: center;">「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」</p> <p style="text-align: center;">薬学教育協議会</p> <p style="text-align: center;">薬学教育者ワークショップ委員会</p> <p style="text-align: center;">平田 収正</p>	<p style="text-align: center;">話題提供</p> <p>1. 厚生労働省科研費事業</p> <p>2. 薬学教育者ワークショップの在り方</p> <p>① 薬学教育の支援体制</p> <p>② 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂</p> <p>③ 学習成果基盤型教育(outcome-based education)</p> <p>④ 第三者評価で求められる学習成果の評価</p> <p>3. 今後の取り組み</p>
--	---

<p style="text-align: center;">厚生労働省科研費事業</p> <p>厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業</p> <p>◆ 課題名 「薬剤師養成の実質化を実現するための実務実習指導薬剤師養成研修改革に関する調査研究」</p> <p>◆ 期間 平成23～24年度(2年間)</p> <p>◆ 研究代表者 須田 晃治(薬学教育協議会)</p> <p>◆ 研究分担者 平田 収正(薬学教育者ワークショップ委員会)</p> <p>◆ 研究協力者 薬学教育者ワークショップ委員会委員</p>	<p style="text-align: center;">厚生労働省科研費事業</p> <p>◆ 事業の目的 研修プログラム(WS)の有用性・実効性の検証と、これらを担保するための改善策の策定・提案</p> <p>◆ 事業内容</p> <p>[平成23年度]</p> <p>1) WS参加者、タスクフォースに対するアンケート調査</p> <p>2) シニアタスクフォースの派遣</p> <p>[平成24年度]</p> <p>1) 中堅・若手タスクフォースの交流</p> <p>2) シニアタスクフォースの派遣</p> <p>3) 全国アドバンスWSの開催</p>
---	--

<p style="text-align: center;">厚生労働省科研費事業</p> <p>(1) 研修プログラム(WS)の有用性・実効性の検証</p> <p>・平成23年度に実施した1)及び2)の事業により、WSにおける課題として以下の点が明らかになった。</p> <p>① 参加者が実務実習の指導において重要と考える「方略」のセッションが効果的に行われていない。</p> <p>② タスクフォースのスキルアップ、意識統一が必要である。</p> <p>③ 若手タスクフォースの養成が必要である。</p> <p>④ 実務実習が始まったので、より実際の臨床現場での教育に有効な内容に変更した方がよい。</p> <p>・また、今後のWSの在り方について以下のような意見・要望もある。</p> <p>⑤ 現在改訂作業が行われているモデル・コアカリキュラムに合わせてWSの内容を変更すべきではないか(Outcome-Based Educationとの関連性)。</p>	<p style="text-align: center;">厚生労働省科研費事業</p> <p>(2) 研修プログラム(WS)の有用性・実効性を担保するための改善策の策定・提案</p> <p>・平成24年度は、WSの有用性・実効性を担保するための改善策として、以下のような事業を実施した。</p> <p>① トライアルとして「方略」のセッションの時間を90分から120分とした。また「方略」を予め意識してもらうために、1日目の昼休みにコミュニケーション能力の教育方法(学習方法)を考えてもらう時間を設定した。</p> <p>② 地区単位で実施するアドバンスWSのモデルプログラムを提示した。</p> <p>③ 全国アドバンスWSを開催し、タスクフォースのスキルアップを図った。</p> <p>④ 中堅・若手タスクフォースの地区間交流を行った。</p> <p>⑤ ベテランタスクフォースを他地区に派遣し、タスクフォースのスキルアップ及び意識の統一を図った。</p>
--	---

薬学教育の支援体制

新薬剤師養成問題懇談会(新六者懇)

- ・文部科学省(高等教育医学教育課)
- ・厚生労働省(医薬食品局総務課)
- ・日本病院薬剤師会
- ・日本薬剤師会
- ・国立薬学部長(科長・学長)会議
- ・日本私立薬科大学協会

オフゼーパー

- ・日本薬学会薬学教育改革大学人会議→薬学教育委員会
- ・一般財団法人・薬学教育協議会
- ・財団法人日本薬剤師研修センター
- ・薬学共用試験センター
- ・一般社団法人薬学教育評価機構

薬学教育の支援体制

全国レベルで開催されているワークショップ

認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)
主催: 薬学教育協議会
参加者: 病院・薬局薬剤師、大学教員

全国学生ワークショップ
主催: 日本薬学会教育委員会
参加者: 全国の薬学生(6年生)

薬学教育者のためのアドバンスワークショップ
主催: 日本薬学会教育委員会
参加者: 大学教員、病院・薬局薬剤師

薬学教育指導者のためのワークショップ
主催: 文部科学省
参加者: 薬科大学長、薬学部長

薬学教育の支援体制

文部科学省

- 薬学教育指導者のためのワークショップ
- 薬学系人材養成の在り方に関する検討会
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/039/index.htm)
- ・薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/47/index.htm)
- ・新制度の薬学部及び大学院における研究・教育の状況に関するフォローアップワーキンググループ

薬学教育の支援体制

公益社団法人 日本薬学会 (薬学教育: <http://www.pharm.or.jp/kyoiku/>)

- 薬学教育改革大学人会議
 - ・実務実習指導システム作り委員会
 - ・実務実習環境整備委員会

薬学教育部会

平成23年度設置

薬学教育委員会

- ・薬学における学士力・博士力作業班(継続事業)
- ・生涯研鑽制度作業班
- ・薬学教育者アドバンスワークショップ作業班(継続事業)
- ・モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会

薬学教育の支援体制

一般財団法人 薬学教育協議会 (<http://www.yaku-kyou.org/>)

- 薬学教育協議会は、昭和33年に「薬学教育の充実・改善・発展」を目的に任意団体として創設された。平成20年には一般社団法人となりましたが、創設時の精神を引き継いで薬学教育にかかわる下記の事業を実施している。
- ・薬学教育に関する調査・研究・評価
- ・薬学教育カリキュラムの検討
- ・薬学教育者ワークショップの実施
→薬学教育者ワークショップ委員会
- ・病院・薬局実務実習の円滑な実施のための調整
→実務実習推進委員会・病院薬局実務実習地区調整機構
- ・学部卒業生及び大学院修了者の就職動向調査
- ・薬学系学部または学科教員の教科担当国会議の開催

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

文部科学省

薬学系人材養成の在り方に関する検討会
薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会

文部科学省
大学における医療人養成推進等委託事業

日本薬学会 薬学教育委員会

薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究

・モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会
(薬学教育委員会委員・協力委員+全薬系大学教員)

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

現行のモデル・コアカリキュラム

日本薬学会(平成14年8月)
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」
薬剤師、薬学研究者等を目指す学生が学んで欲しい内容を整理した薬学専門教育のガイドライン。

1,446項目の目標

コアカリキュラムが7割、残り3割はオリジナル(アドバンス)教育を行って、大学の特色をだす。

文部科学省(平成15年12月)
「事前学習・病院実習・薬局実習モデル・コアカリキュラム」の目標、方略を作成し、その後評価(案)も作成。

事前学習 77 SB0s, 1ヶ月
薬局実習 116 SB0s, 2.5ヶ月
病院実習 108 SB0s, 2.5ヶ月

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

モデル・コアカリキュラムの改訂

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂について(案) 2012.1.17
(第5回薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会・資料)

改訂に関する基本的な考え方

- 1) 学生と教員が情報を共有できる分かりやすいものとする。
- 2) 現行のカリキュラムとの対比が容易で、変更箇所が明確なものにする。
- 3) SB0表記の原則は、「何をすればよいのか」が学生に直接伝わるものとする。例えば「そのまま試験問題として使用できる」具体性を持つ必要がある。
- 4) 現カリキュラムでは各コース・ユニットを「なぜ」学習するのか、その意義が記載されていない。これを補うために「薬剤師として求められる基本的な資質」(以下「資質」と略)をカリキュラムの最初に明示する。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

モデル・コアカリキュラムの改訂

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂について(案) 2012.1.17
(第5回薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会・資料)

【改訂に関する基本的な考え方】

- 5) 各分野のGIOを、「資質」部分とリンクする内容に書き直す。
- 6) 各分野のGIOを達成するために必要なSBOsを列挙する。
- 7) 全体の量を減らし、窮屈感を解消する。
- 8) 薬剤師の将来像を見据えたものとする。

➡ 「薬剤師として求められる基本的な資質」を明示する。

➡ 学習目標は、GIOとSBOsによって示される。

薬剤師として求められる基本的な資質 (案)

豊かな人間性と医師とともにの深い使命を担い、生命の尊厳を深く認識し、生涯にわたって高い専門性としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを志して社会に貢献する。6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

〔薬剤師としての心構え〕

① 医師の専門性について、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、薬剤師の役割及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命・責任感及び倫理観を有する。

② 患者・生活者本位の姿勢

患者の人生を尊重し、患者及びその家族の価値を守り、常に患者・生活者の立場に立ち、これらの人々の安全と利益を最優先する。

③ コミュニケーション能力

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

④ チーム医療への参加

医療機関や地域における医療チームに積極的に参加し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にこなす。

⑤ 基礎的な科学力

生体及び薬物に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基礎的な知識・技能・態度を有する。

⑥ 薬物療法における実践的知識力

薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給、調剤、服薬指導、処方箋の読解等の薬学の基礎的な能力を有する。

⑦ 地域の保健・医療・福祉、介護及び行政等に参画・連携し、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

⑧ 研究能力

薬学・医療の進歩と改訂に資するために、研究を遂行する意欲と問題解決能力を有する。

⑨ 自己啓発

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

⑩ 教育能力

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

学習成果基盤型教育(OBE)

学習成果基盤型教育(OUTCOME-BASED EDUCATION)とは

- ◆ 教育を終えたときに学生が修得していると期待されることを重視する。
- ◆ ここでの修得は、単に知識を得ているということだけでなく、実際に学生が学習したことを実行できる(performance)能力を有していることを意味する。
- ◆ 学習成果基盤型教育では教育を終了したときに修得していることが期待されることをまず定義し、そのエンドポイントに到達しうる教育を責任もって提供する。

学習成果基盤型教育(OBE)

薬剤師教育では

「よい薬剤師とは？」という疑問から始めて望ましい卒業生の特性を定義する。



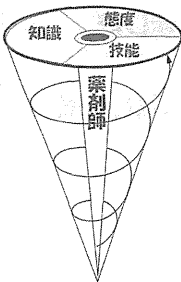
学生がそのアウトカムに到達したか否かを評価する方法と基準を決める。



学生がアウトカムに到達できる学習方法を考える。

学習成果基盤型教育(OBE)

順次性のあるラセン型カリキュラム Harden 1999

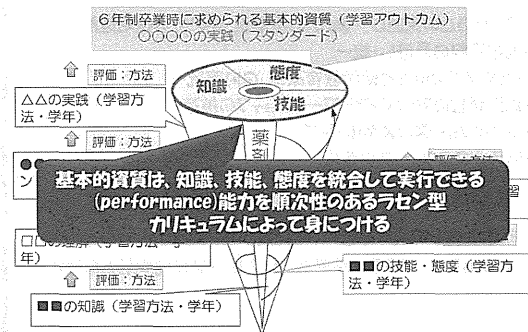


ラセン型カリキュラムの特徴

- ・ 同じテーマで繰り返し学習する
- ・ 繰り返し学習では、テーマに沿ってより最新の、高度な、応用できる知識、技能、態度が修得できるように目標、科目が設定される
- ・ 過去の学習内容を更に強化するように目標、科目を設定する
- ・ 科目、学年ごとに修得する内容が増加して、6年制卒業時に求められる基本的能力に繋がる

学習成果基盤型教育(OBE)

順次性のあるラセン型カリキュラム



第三者評価で求められる学習成果の評価

- ◆ ヒューマニズム教育・医療倫理教育
- ◆ 教養教育・語学教育
- ◆ 病院・薬局実習
- ◆ 問題解決型学習

『○○○○教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること(が望ましい)。』

第三者評価で求められる学習成果の評価

◆ 学士課程修了認定

【基準 8-3-3】

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を適切に評価するよう努めていること。

【観点 8-3-3-1】

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を測定するための指標を設定するよう努めていること。

【観点 8-3-3-2】

総合的な学習成果の測定が設定された指標に基づいて行われていることが望ましい。

➡ 薬学教育の第三者評価でも総合的な学習成果の評価を適正に行うことが求められている。

第三者評価で求められる学習成果の評価

◆ ヒューマンズム教育・医療倫理教育

【基準 3-1-1】

医療人としての薬剤師となることを自覚し、共感的態度及び人との信頼関係を醸成する態度を身につけるための教育が体系的かつ効果的に行われていること。

【観点 3-1-1-4】

ヒューマンズム教育・医療倫理教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること。

第三者評価で求められる学習成果の評価

◆ 教養教育・語学教育

【基準 3-2-2】

相手の立場や意見を尊重した上で、自分の考えや意見を適切に表現するための教育が行われていること。

【観点 3-2-2-4】

コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること。

第三者評価で求められる学習成果の評価

◆ 病院・薬局実習

【基準 5-3-6】

実務実習の評価が、実習施設と学部・学科との間の適切な連携の下、適正に行われていること。

【観点 5-3-6-4】

実務実習の総合的な学習成果が適切な指標に基づいて評価されていることが望ましい。

◆ 問題解決型学習

【基準 6-2-1】

問題解決能力の醸成に向けた教育が、体系的かつ効果的に実施されていること。

【観点 6-2-1-3】

問題解決能力の醸成に向けた教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること。

第三者評価で求められる学習成果の評価

◆ 学士課程修了認定

【基準 8-3-3】

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を適切に評価するよう努めていること。

【観点 8-3-3-1】

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を測定するための指標を設定するよう努めていること。

【観点 8-3-3-2】

総合的な学習成果の測定が設定された指標に基づいて行われていることが望ましい。

➡ 薬学教育の第三者評価でも総合的な学習成果の評価を適正に行うことが求められている。

今後の取り組み

◆ 薬学教育者WSの見直し(継続)

- ・プログラムの見直し(「動詞」の重要性・使い方の説明追加)
- ・配布資料の見直し・統一
- ・講演「WSの歩みと薬学教育改革」の内容統一
- ・地区単位のアドバンスワークショップの推進
- ・タスクフォースのスキルアップ
- ・若手タスクフォースの養成

◆ 学習成果の総合的な評価に関する検討

- ・薬学教育を研究する組織(研究会)の立ち上げ?
 - 薬学教育協議会と薬学会、薬学教育評価機構等との連携

ご清聴ありがとうございました。

今後とも何卒よろしくお願い致します。

資料 6-7

参加者の評価および感想・意見

1. 参加者の評価

(1) 今日のワークショップの流れにスムーズに入りこめましたか。

最低 1 2 3 4 5 最高

中程度

4.0

(2) 今日あなたは討議にどの程度参加しましたか。

1 2 3 4 5

3.8

(3) 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。

1 2 3 4 5

4.3

2. 参加者の感想・意見（抜粋）

（1）アドバンスワークショップに対する感想

- 今回、非常に短い時間の中でのアドバンスワークショップではありましたが、内容の詰まった刺激ある時間であったと思います。今後のワークショップの中で、参加者にわかりやすく、持ち帰って活用し得よう実践していきたいと思います。
- 参加者が全国からいらしていたので、SGDでは、初めての方とのディスカッションとなり新鮮でした。1P5Sには、驚きました。
- 昼食時の情報交換会は、テーブルの方々とは、出身地域が異なるので、それぞれの地域の実情などの話しが出来ました。
- 久しぶりにSGDの参加者になって、一人が発言することで、まったく違う方向に議論が進んでいくのがわかりました。ついつい、議論を聞いているうちに言葉を挟むことが出来ず、決まりかけた結論が、また振り出しに戻ります。タスクフォースの時は、ホワイトボードの活用と司会者への促しの重要性を改めて実感しました。
- 今回のSGDに参加して各地域でタスクフォースをされている方々の意見を聞くと、今回の討議テーマについては大きな地域差がなく、全国の参加者で討議するに相応しいものであると感じた。
- 本ワークショップの副題は「タスクフォーススキルアップ集会」とある。私は、経験年数だけは増えているが、タスクとして確たる自信を持ってないままだった。今回のアドバンスワークショップに参加し、全国のタスクの皆さんと交流したり、SGDをする中で多くの気付きを得て、少なからずスキルアップできたのではないかと思う。今後のワークショップの中で活かしていきたい。
- アドバンスWSということで「タスクフォーススキルアップ集会」、「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」というサブタイトルがついていました。「タスクフォーススキルアップ集会」という点についてはこれまでタスクを数回経験しているので自身のニーズに合っていました。これまでタスクとして参加したWSでは薬剤師の大切な卵を育てる指導者養成の研修会なので責任を感じながら取り組んできました。参加者に満足してもらうために何が出来るかそれを探る目的で今回のアドバンスに参加しました。
- 今後、指導薬剤師のレベルアップは必須のことと考えます。指導薬剤師のレベル維持・向上につながるアドバンスWSに発展すれば良いなと感じました。薬剤師教育に注目が集まり、優秀な後輩薬剤師であふれるようになればとても素晴らしいことだと思います。
- 受講者の立場で参加して、初心に帰ることができたこと、全国でタスクフォースを務められている方々の意見を聞くことができたこと、数年ぶりに中島先生のお話を拝聴することができ、とても幸せな気分で岐路につきました。
- ワークショップから少し時間が経って改めて思い返してみますと、参加者の立場・思いを考えることを忘れてしまっていたなあ、自分も今回は少なからず不安を持って今回参加したけれども、普段のワークショップの参加者はもっと不安を抱えて参加してきているはずだ、タスクとしてはもっと参加者の側に寄り添って行動せねば、という思いを強くしています。
- 昼食時の情報交換会では、実務実習生に対する指導に関する悩みや認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップでのタスクに関する事などについて、多くの参加者と情報を交換することができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- 今回のワークショップへの参加は、あらためてタスクフォースとしてのスキルアップの必

- 要性とその重要性を認識することができ、非常に有用であった。今後の WS では、今回の経験を活かして、参加者により良いプロダクトを持ち帰ってもらえるようにしたいと思う。
- 指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォースとして、プロダクトのクオリティと受講者に対してカリキュラムプランニングの作成過程を学んで頂き、自施設にあった方略や評価方法に関するプロダクトを持ち帰って欲しいとの思いがある。
 - 各地域でのワークショップ開催回数が少なくなっており、タスクフォースの経験回数が少なく、なかなかレベルアップが難しい状況にある。今後、可能であれば定期的に、全国のレベルアップや意思統一を図る上で、今回のようなタスクフォースのスキルアップ研修会の定期的開催を希望します。
 - 薬学教育ワークショップが薬学生と国民の貢献となることを期待しております。
 - 全国からタスクフォース経験者が集まり、情報交換を兼ねてタスクフォースとしてのスキルアップができるということで、これからの実務実習指導薬剤師養成 WS (私個人としては薬学教育者 WS としたほうがいいのかと考えますが)、地区でのタスクフォースの育成 (自らの成長も含めて) を考える良い機会になりました。
 - WS は、参加者が主体的に論議に参加をしてお互いに学び合う創造の場だと言われています。私たちタスクフォースは、受講者が SGD に積極的に参加をして、グループ共同でよりレベルの高いプロダクトを作成することを、どのようにサポートしていくかを考えなければなりません。そう言った意味で、タスクフォースは、①二日間の WS を楽しく有意義に過ごしてもらうこと②受講者に納得のいくプロダクトを作成したという達成感をもってもらうこと③受講者自らが体験した参加型学習の良さを実習生の指導に積極的に取り入れてもらうこと (まだ他にもタスクフォースの心得はたくさんありますが・・・) そして④「実務実習」が薬学教育の中で重要な位置づけに有り、常により良い実習とは何かを創造していくこと (ですから、実務実習指導薬剤師=薬学教育者と考えるべきかと思います) これらを基に自分たちのタスクワークがどうあるべきか考えさせられる貴重な時間を今回の WS でいただきました。
 - 今回参加して、タスクフォースとして疑問に感じていたこと・不安に感じていたことを整理・共有できたことが最大の成果である。これを踏まえて、今後活かしていきたい。
 - 今回の集会の参加者は全国から選抜された経験豊富な TF であったが、いざ WS 参加者となると、自分の思いの丈を話し、眼前の問題点の抽出や改善の方向性のディスカッションが有効とはいえなかったと思われる。加えて全体討論の場で、経験豊富な TF であっても WS 参加者となると全体会場での発言が PNP になっていなかったと感じた。
 - 最後の話題提供では、薬学教育モデル・コアカリキュラムは既に進化を始めていて、その方向性は明確であるということ。その一翼を担う指導薬剤師も進化の方向性を理解しより良いカリキュラムプランニングを行うことが求められていて、共に進化することが必要であると感じた。
 - 一貫して非常に充実した有意義な時間を過ごさせていただきました。
 - 今回のアドバンスワークショップでは、全国から集まった大学教員、実務者のタスクフォース仲間とそれを考えてみるよい機会となりました。どらえもんのポケットがちょっと増えたような気持ちです。
 - さて、薬学部が6年制となり来年度はもう4度目の実務実習です。そろそろ全国で行われている実務実習を客観的に検証していくことも必要になってくるのではないのでしょうか。より質の高い実務実習を行っていくために、私たち実務者も薬学教育の一端を担う一員としての自覚を持ち、これからも全国の大学の先生方や実務者同士での情報交換を密に行い、助け合って進んでいくことができればと思います。
 - 日頃タスクフォースとして感じている疑問や問題点を全国のタスクフォースの皆さんと共

有し、その改善法を討議できたことは私にとって大変有意義でした。

- ▶ 他の多くのタスクフォースの方々にも、このような機会が与えられると、通常のワークショップ運営に好影響をもたらすのではないかと感じた。
- ▶ WS開催回数が減り、タスクフォースとしての資質や能力の向上に不安を覚えることもあるが、今回のようなAWSに参加することでいままでのタスクとしての取り組みを振り返ることができるよいきっかけになったと思う。セッションを通して様々なタスクの方々と議論を重ね、自分の振り返り、スキルの向上、モチベーションの維持など参加者にはよい効果があったのではないかと感じた。
- ▶ 自分自身の成果としては、正直なところ、7時間のプログラムの中では今回のアドバンストWSの意図を消化しきれずに悩みながら帰ったのですが、内容を見直して考えるうちに、今回の参加を通して薬剤師のコンピテンシーを意識するようになり、他地域の多くの先輩タスクフォースの関わり方を学べたことに気がきました。きっと次回のWSでは、今まで以上に目指す方向を意識してタスクフォースを務めることができると思います。
- ▶ 現場の指導薬剤師は認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップで教育の基本となる部分を経験し理解できたように思うが、大学教育者とのズレを感じて指導を行っている。学生に薬剤師としてのすばらしい教育を提供することはもちろんであるが、実務を行いながら実習を担当する現場の指導薬剤師のことも考慮した改定を望むところである。
- ▶ 参加された先生方は経験豊富でシニアタスクのようなメンバーであり私のような若輩者には負担を感じたが久しぶりのワークショップで良い経験ができたと思う。
- ▶ 今回のアドバンストワークショップで理解できたことは、「教育」は難しいということです。教育者（タスク）一人一人の個としての意見と、教育内容（理念や目的など）との統一が本当に難しい。教育カリキュラムを細分化しても、教育者個々の理解や意志の違いが、学習者に対して教育内容を変えてしまう可能性が大きいと感じました。そのためにも、決定された教育プログラムに対して可能な限り系統的な教育が実践されるように、教育者への指導やコミュニケーションを図るための取り組みが非常に重要であると感じました。
- ▶ 例示する書類は非常に重要であると本ワークショップで感じました。午後は、ある例に対してSBOを整理し直して、方略等を検討することでした。ここで提示された資料では、ロールプレイなどとともに、“実践”という表現がありました。実際に調剤したり、服薬指導をしたりすることは、“実習”という表現の方が多用されているように感じていましたが、タスク経験豊富な参加者が集まったにもかかわらず、実践を実習と修正する発表はなく、実践と発表されていました。これは、配布資料に参加者が顕著に左右されることを示しているものと思いました。したがって、教育に用いる配布資料は、細部にまで気を付けて準備しなければいけないと肝に銘じ、今後、学生教育を行いたいと思います。
- ▶ 教育は非常に難しいことではありますが、薬学・薬剤業務の向上には、優秀な後輩を育成していくことが非常に重要なことでもあります。そのためにも、今後も、よりよい教育環境の構築や指導の実践を目指して努力したいと考えます。
- ▶ ワークショップの楽しさ、難しさ、奥深さを再認識しました。今後、タスクフォースを担当する上で、自分に補うべきものを明確にするとともに、新たな気付きの機会を多く与えていただき、心から感謝いたします。
- ▶ 昔、指導薬剤師認定のためのWSでタスクフォースとして御世話いただいた先生方の姿があり、とても懐かしく思った。振り返ってみると、大分長い間、WSで勉強させていただいているんだな、ということに改めて感じた。
- ▶ 普段のワークショップでは、タスクフォースとしての役割を優先していて、参加者の意見を尊重して、それをうまく修正できるかどうか考えることが主であり、自分でオリジナルな意見を出すことが久しぶりだったので、それが難しく、また楽しい経験になりました。

- 今回のワークショップでは、周りに多くのタスクフォース経験者がいて、意見交換も活発に行われ、ディカッションの流れも、本当に時間通りに、しかもしっかりした議論に基づいたプロダクトができたので、自分も多くのことを学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- 医学・薬学の分野は凄まじい勢いで展開し、最善の医療を提供すべく日々進歩しています。薬剤師や薬学関係者は時代に応じた医療・教育・研究を展開していかなければなりません。21世紀は分子標的薬とバイオ医薬品の時代となり、薬物療法も大きく変わってくるでしょう。その流れに合わせた薬学教育のアドバンスが必要です。本WSを通して、21世紀という時代背景を意識した教育プログラムを、刻々と変化する医療に合わせて、再構築していかなければならない重要性を教えてくださいました。
- タスクフォース経験者の皆さんと議論する中で、統一できていないところ、皆が疑問に思っている部分等を共有でき、議論できたことも大切だと思った。
- 全体を通じて、多くの気づき、学びが得られた。ただ、このワークショップ自体のGIO、SBO自体が示されていなかったため、自分がどのようなスタンスで関わればよいか戸惑った。また、すでに認定を受けた指導薬剤師の資質の維持、向上を目的としたアドバンスワークショップの標準化が必要であると感じた。
- わたくしはタスクフォースの経験もなく、本薬学協議会のワークショップに参加すること自体が初めてで、タスクフォーススキルアップのためのWSに参加してよいものやら...と思いつつ、経験豊富な先生方の足手まといになるのではないかと心配と緊張しながらの参加でした。会場に入った時、参加者の皆さんが円陣を組んで座っておられ、ほとんどの先生がにこやかに談笑されておられるのを見て、いったい何が始まるのだろうと益々不安を覚えました。自己紹介のご挨拶を聞いて、ご参加の先生方ほとんどがワークショップを経験された先生で、このアドバンスワークショップを楽しみにご参加されておられるのを知り、次第と興味がわいてきました。ただ、未経験のわたくしが参加するSGDの先生方にはたいへんご迷惑をおかけするのではないかと心配を払拭されることはありませんでした...
- 私自身これまでの認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(WS)でのタスクフォースとしての経験もなく、Bグループの議論について行くのも難しかったが、改めて今後の薬学教育を考えるには本当に良い機会であったと感じる。以前参加したWSの中で、教育は学習者の心に価値ある変化をもたらすプロセスであると聞かされたことを思い出した。ASWを通しタスクフォースをスキルアップさせることで、今後ますますWS参加者そして学生の心に価値ある変化をもたらす薬学教育が発展して欲しいと考える。

(2) セッションの概要・感想・意見

【セッション1】

- 「SBOに使える動詞を考えてみよう」というテーマから、最初に情意領域の動詞が足りないとの発言から「傾聴する」「共感する」「受け入れる」とたくさん動詞が出ました。実際にタスクフォースとして、参加者に説明するときには、どうだろうと議論が広がり、形容詞や副詞をつけて説明することで、よりわかりやすくなると一致した。そんな議論の中から「寄り添う」という動詞が良いとの発言があり、取り入れることになった。SBOとして、「患者さんの気持ちに寄り添う」「他職種と協調する」「末期患者さんの思いを受け入れる」。認知領域では、若い世代を意識して「検索する」、SBOとして、「ARBの副作用

を検索する」。精神運動領域では「調剤する」「計量する」、SBOとして、「水剤を適切に計量する」が決定しました。

- ▶ 最初は「共感する」「傾聴する」「質問する」「教える」など一般的、画一的な動詞しか出て来なかった。ひさびさに当事者となり、ワークショップ参加者の産みの苦しみを味わったが、タスクの21世紀という時代に求められる薬剤師像をイメージするという助言から、「心音を聴く」「脈を取る」等、具体的な動詞が湯水のごとく湧いてきた。追加した動詞を用いたSBOも「得られたバイタルサインに基づいてアセスメントする」「来局者の症状に応じて薬学的診断に基づき（医薬品使用の要否、受診勧奨等）、トリアージする」など、カタカナ動詞を使った斬新、かつ夢のあるものになった。自分の経験や環境の枠組を超えられない発想が、タスクの助言により、枠組みを取り払い、将来をも見据えた発想に変わっていく過程を実感できた。
- ▶ WSでよく使っている動詞の表を取り上げ、薬剤師の将来の業務に当てはまる動詞が含まれているかについて議論しました。私たちのメンバーはタスク経験の豊富な方が多く、短い時間ながら中身の濃い議論となりました。通常のWS参加者は動詞の表に当てはめながら、議論を進めがちになる。「考えや思いを動詞表に縛られるのでは無いか?」、「タスクが効果的に介入するためのツールであればよいのではないか」という意見が出されました。
- ▶ 午前中のSGDは、動詞の表に足りないものを追加しようということで、実務実習の内容や薬剤師に求められる基本的資質を意識してディスカッションすることが求められた。説明を聞いた時点では少しも思いつかなかったが、いざ議論をはじめると、医師ものと比較して薬剤師の業務に直接関わる動詞が少ないこと、求める能力のレベルや深さを表し分けるようにするためのバリエーションが足りないことなどに気づき、非常に多くの動詞がピックアップされた。
- ▶ 一つめのセッションは「SBOsに使える動詞を考えてみよう」でした。ブランクの所為か、私の頭の中にはなかなか動詞が浮かんでこずに苦労しましたが、グループのメンバーが次々に発する動詞はどれも納得できるものばかりでした。ブランクの所為になどしてはおられぬと大いに周りから刺激を受けると同時に、グループのメンバーも同じようにワークショップで苦労されているのだなあ、と安堵したのも事実です。
- ▶ 午前中のセッションでは、指導薬剤師WSでGIOやSBOsといった目標作成時に参加者が参考にする「動詞表」を見直す作業を行った。見直しを行う理由について事前のプレゼンテーションでは、以下のメリットを期待していた。
 1. 薬学教育にふさわしい動詞の提供をすることで、WS参加者が作成するプロダクト（報告書を含む）の質が向上する。
 2. タスクフォースの能力に寄ることなく、全国共通した方向性を示すことができる。
- ▶ 総合討論の中で、技能は実際に手足を動かして学習方法との解説があり、現状のワークショップのテーマである医療倫理は、技能の領域作成が困難になるのではと感じた。
- ▶ 明確な目標を作成するにあたっては、今回のアドバンストWSの最初のセッション「SBOsに使える動詞を考えてみよう」で動詞の数を増やすというのは、とても良い試みかと思えます。私たちのグループでは、動詞の数を減らしたほうがいいのでは?という意見もありましたが、初めて参加する受講者にとって選択肢が多くあるということは、限られた時間の中で効果的に作業を進めるという観点からも必要なことかと思えます。目標を立てる際には、どんなことが必要なかを考える、そしてそれを文章化する、その中で適切な動詞を選択するという流れであれば、選択肢は多い方が作業はより効果的で迅速になるはずで
- ▶ 今後は各地区で開かれるWSの中で、実際に参加者が作成した目標の中から出てくるだろう様々な動詞を持ち寄って、薬学教育にふさわしい知識、技能、態度を記述するための適

切な動詞を増やしていく議論をタスクフォース経験者がしながら、資料を充実させていくという考えがあっても良いかと考えます。

- ▶ ワークショップに TF として参加していて時々感じるのは、参加者は目標作成の際に、動詞例の表から領域やレベルをあまり意識せず、安易に選択してグループの総意としているのではないかという事である。なるほど「学習目標記述のための動詞(例)」は大変参考となるし、「ペーパードライバーの再教習(例)」は GIO の General や SBO の Specific を理解するには有用だとは思ふ。しかし、どちらも薬学教育にとって特異的な使用例があるとは言えないのでは思っていた。個人的には「実習するからにはこんなことができるようになってほしい。」「こんな風に行動が変わってほしい。」と思うことがあっても、全体のコンセンサスも得られていないので、TF としてどういう風に助言を行えば良いかわからず、大きなジレンマを感じるところである。その点からは今回の集会の趣旨は私のニーズに大変マッチしていたと思う。現行モデル・コアカリキュラムの改訂作業が行われているが、今回の集会のテーマから改訂の方向が垣間見えたと思われるし、WS においてもそれが反映された目的動詞例となることを期待したい。
- ▶ WS において参加者は動詞の表を頼りに目標を文章化していこうとする傾向がみられるため、6年制薬学教育にふさわしい目標の動詞を提示することで、自然と参加者は参加型のカリキュラムを意識し、より実践的な目標が設定されることにつながる。
- ▶ 目標作成のための動詞を増やそう～ワークショップにおいて受講生は例示された動詞に影響されているようである。従って、例示する動詞例を増やせば、参加者の目標作成を支援することが出来ると共に、タスクフォースの介入を減らすことが出来るのではないかという仮定の下に、目標 (GIO、SBOs) のための動詞を増やす作業を行った。このセッションの中で、「討議する」や「参加する」は動詞として適当か、又、SBOs 作成に当たって動詞例を増やすという2点に関して議論を行った。その結果、前者に関しては、適切な副詞を加えること、例えば「積極的に」や「主体的に」を「参加する」という動詞に加えると、明確に測定可能な SBOs になるとの結論に至った。一見、SBOs の動詞として不適切と思われても、適切な副詞や形容詞を加えて味付けすることで、動詞が生きてくることを改めて認識した。一方、後者に関しては、圧倒的に「態度」を表す動詞が少ないことや医学教育で用いられている具体的な動詞 (挿入する、手術するなど) が少ないなどの意見を参考に、態度を表す動詞としては、「寄り添う」、「傾聴する」、「共感する」、「寛容する」、「協調する」など多くの動詞が挙げられた。「態度」においても深さのレベルが異なる動詞を例示することで、求める深さのレベルがはっきりとした SBOs を作成することが可能となる。一方、技能に関しては、「計量する」、「混和する」、「調剤する」などの具体的な動詞が挙げられた。今後、このワークショップで提案された動詞が、実際の認定指導薬剤師養成ワークショップの資料に反映されることを切にお願いしたい。
- ▶ 「SBOs に使える動詞を考えてみよう」：学習目標記述のための動詞(例)については、例示されていても実際は使い難い語や、例示されていなくてもよく使われる語があることを、以前から感じてはいた。今回、この動詞の一覧を見直そうということで SGD が始まった。SGD の結果、「技能」「態度」の領域も動詞によって、学習者の到達するレベルの深さを表現することが可能ではないか。また、「技能」の領域では、薬剤師に求められる特有の技能を示す動詞があってもよいのではないか。また、時代とともに学習目標記述も変わっていくことため、新しい動詞も必要ではないかとの議論になった。SGD の中で、「知識」「技能」「態度」の内、「技能」とは何かについて考えさせられる場面があった。「技能」とは手足を使って行うことであり、英語の skill とは異なると考えることが必要と再認識させられた。すなわち、「態度」や「知識」にも skill が必要な場合があり、「技能」と混同しないことが重要であるとの認識である。

- ▶ 動詞については、領域をどのように捉えて良いのかわかりにくいものがあると感じていた
が、具体的な修正や医学分野の WS で用いられている資料との差異を意識したことはなかつた。
本 WS で提案された、技能は手足を動かすものと定義してみませんか・・・という
考え方は、WS の参加者にとっても我々にとっても、直感的に理解しやすいものだった。
例えば「討議する」という動詞は、資料では情意領域となっているが、知識だとか技能だ
とか様々な論議があり、参加者の混乱を招く一つの要因であったかと思うが、それに対す
る一つの解決策になると感じた。しかし、動詞をどのように捉えるかについては、自分
の中で再確認する必要がある、今後のタスクワークの中で WS に参加するタスクフォースが
共通の意識を持つことが大切だと思う。
- ▶ それぞれの P 会場での全体討論は大変活発で、質問や指摘部分は今後の WS にタスクとし
て参加するうえで大変参考になった。
- ▶ WS の目標セッションでは、与えられた資料とタスクフォースを頼りに見う見まねで目標を
考えるので、参考資料の質を向上させることは、より良いプロダクトやタスクフォースの
個性に左右されない全国共通の方向性に繋がります。SGD では医学教育者 WS の資料を参
考に、21 世紀の時代背景や薬剤師コンピテンシー、実務実習の現場を意識して、もっと具
体的でもっと夢のある動詞と使用例をたくさん考えました。活発な意見でなかなかいいも
のができたと思っていたら、他のグループからも更に素敵な動詞が提示されて、これから
の薬剤師の可能性に気付かされます。
- ▶ 総合討論では「動詞例を提示する必要性」を討論したが、認定実務実習指導薬剤師養成ワ
ークショップ参加者は初めての経験で理解も出来ていない状態であり動詞の例を資料とし
て配布することは必要であると感じた。
- ▶ 第 1 部の作業「動詞表(例)を見直してみよう」では、参加者のタスクフォースとしての実体験に基づ
いて、学習目標の行動を明確に言い当てた具体的な動詞が多く抽出できたように思います。初め
てワークショップに参加される多くの方が難しく思うのは、頭の中では教育目標を漠然とイメージで
きていても、いざ文章に起こす段になると、キーワードから文章を作る際の動詞の選択に多くの時
間を費やします。そのため、教育目標の中身を吟味する時間が少なくなりがちです。今回作成した
動詞例をとりまとめ、今後のワークショップに活用することに賛成です。討論の中で、動詞例の充
実は、かえって参加者へ介入しすぎることにつながるのではないかというご意見がありましたが、タ
スクフォースが介入するのは、参加者の議論の中身ではなく、議論が気持ちよくスムーズに進行す
るためのサポートだという明確な立ち位置を持っていれば、介入しすぎることにはならないように感じ
ます。さらに、タスクフォースの行動マニュアルのようなものを作成してはというご意見もありましたが、
個人的には、微に入り細を穿つ説明や手順書を作成することは、ワークショップの良さ(自由な議
論)を損なう可能性もありますので、現行の指針で十分だと感じています。
- ▶ 動詞を見直すことは重要であり、何度かワークショップを経験してくると、頻繁に出てく
る動詞もあった。発表後の討論の中で、動詞の選択肢を増やし過ぎてしまうと、ワークシ
ョップの参加者の自由な発想が引き出せないのではないか。という議論があった。確かに、
動詞の数をそれなりに制限することで、参加者は自由に発想でき、自分達で動詞から考
えることはためになると思う。しかし、タイトなスケジュールの中で時間が限られている
中で自分達が作り上げていくのは難しいというより無理ではないかと思う。そのため、個
人の意見としては、今回の SGD で考えたように、多くの動詞を選択肢として提供する方が
いいのではないかと思う。(例え、タスク側が GIO や SBO 等目標となる文章を引き出した
形になったにせよ、)参加者同士が議論して得た。という目標であれば、そこに達成感や充
実感が感じられるのではないだろうか。自分達がカリキュラムを組み立てて行くことで、
その大切さが実感できるはずである。
- ▶ 動詞の見直しというよりも、「目標の作成」という観点に基づく動詞表(例)のあり方その

ものについて様々な考えを共有できた。更には、モデルコアカリキュラムにて既に目標が設定されているにも関わらず、養成ワークショップで「目標の作成方法を学ぶ」こと自体の意義について、参加者とタスクフォースの間で共通認識が図れていない、という指摘がなされた。この点については、タスクフォース内でも十分に共通認識になっていないことが、グループ内で議論された。これは目標作成に限らず現行の養成ワークショップ全体について言えることでもあると考える。現在、学習成果基盤型教育の考え方に基づきコアカリキュラム改定が進められている。これに合わせて、現行の指導薬剤師養成ワークショップのあり方そのものを見直す必要があると思われる。

【セッション2】

- 「学習目標の動詞を変えると何が変わるか？」といテーマでした。Aチームはセルフメディケーションのユニットで、まず、大学で教えてくるべきという観点から、3)のSBOに着目して、「一般基礎知識を習得する」を変えることにしました。ディスカッションが進むうちに、三つのものを一度に考えるのではなく、分けて考えた方が、具体的なSBOになるということになりました。さらに、ディスカッションが進み、知識のレベルの深さを考えて、二つに分けました。SBOとして、「代表的なOTC、漢方、サプリメント、健康食品を分類する（想起）」「OTCについて、適切に選択する（問題解決）」と決定しました。もうひとつは、4)のSBOでこれは手足をつかっていないから、態度ではないか、技能の動詞に変えてみようということになりました。紹介状を作成して、受診勧奨が出来れば、学生にとって、薬局でも紹介状が書けるというわくわくしたSBOになります。ただ、紹介状を書くということが手足を使うかどうかメンバーの中でも迷うところでしたが、あえて、わくわく感を選考しました。態度の領域としたにもかかわらず、時間がなかったため、評価がレポートになってしまっていることに気付かなかったことは反省しています。
- 追加した動詞を使い、より具体的な、学生が見てわかりやすいSBOに改善した。方略や評価を考える過程で、学習の領域について見直し、領域や深さについて整理ができたと思う。タスクと参加者という立ち位置が変わることで、タスクの重要性を再認識すると同時に、効果的な介入も学ぶことができた。
- 午後のSGDでは、以前につくられたGIOとSBOsをみて、動詞の部分を中心に修正してみようということで、我々のグループにはセルフメディケーションに関する目標のプロダクトと参考のためのその方略が与えられた。それを作成した人の意図を汲み取ってということであったが、実際にディスカッションのプロセスを見ているこなしにそれを考えることは困難と感じられ、結局は自分たちの考えを反映したものに修正することになってしまった。しかし、作業自体は大変興味深く、学べるが多かった。実務実習指導薬剤師養成のワークショップでも方略や評価を学ぶことに重点をおくべきではないかという意見もあるようであるが、やはり目標についてよく理解していることは重要であると感じた。
- 二つめのセッションは「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」でした。午前中のセッションでも少し見え始めていた、副詞を上手に用いることで学習目標がより明確になること、これまで通常のワークショップでは触れられてこなかった技能や態度の領域に深さを求めることが可能になる、ということが自分の頭の中で段々と明確になってきました。課題として与えられましたプロダクトの見直しを行っていく過程で、現場の先生方からこんなことがあるよ、あんなことがあるよ、といった実例を聞くことができたのも大学教員としては、新鮮でした。また、グループのメンバーと話し合う中で、段々とプロダクトが出来上がっていくワークショップならではの楽しさも、参加者の立場で改めて認識した次第です。

- このSGDにおいて、学生が問題解決できるようになることも大事だが、自ら積極的に問題を発見する姿勢も大事であり、指導者が形成的評価を繰り返していくことでその姿勢は醸成できる、と熱く語られたメンバーがいた。時間内にその思いを込めたSBOを立てるのにとても苦労したが、その思いにはとても共感でき、このように現場で学生と向き合っている薬剤師の熱い言葉を聞いたことは感動的であった。他のメンバーとも、心の中には同じGIOのたき火が燃えていることを確認しあうことができ、心地よい余韻が残る時間となった。
- 「スキル」と「技能」に関して～タキソノミーを考える上で良く問題となる点に関して、タスクフォースの阿部先生からアドバイスを頂いた。基本となるのは、薬学教育のカリキュラムにおける技能という能力は、あくまでも手足を使った運動に関して用い、スキルという（和訳すると技能であるが）言葉と区別して使用すべきであるということである。
- 「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」：過去のワークショップのプロダクトの学習目標のSBOsを見直して、訂正する内容であった。今回見直し作業を行わなかったが、GIOについても、「(ニーズ)を満たすために、～を修得する。」の文章は、「～を修得できれば(ニーズ)が満たされるのか」という観点で見ると、修正の必要があるように見受けられ、この確認方法の有効性について再認識させられた。
- 「チーム医療」では取り上げたSBOがグループ間で異なっていた。しかし、いずれのグループも一つのSBOを異なる領域の二つのSBOに再構成していたことなどが興味深かった。
- SBO、方略、評価の修正については、比較的簡単に進めることができるのではないかと思ったが、SBOの意図をどう捉えるか、個々の考え方により様々な解釈があることに改めて驚いた。SBOは学習者が理解できる表現が求められるため、SBOはより具体的で明確に表現される必要があるということを改めて認識した。
- 知識までにするか技能にするかは状況と作成する人の感覚で大きく変わると感じた。
- 第2部では、行動目標SBOsのプロダクト例をもとに、表現や動詞を変えることにより、作成者が意図した内容に相応しいものに変更する課題でした。作成者の意図を踏まえるという点は難しかったですが、SBOsをよりよいものにしていく作業は大変面白いものでした。ワークショップの参加者も、「目標」、「方略」、「評価」とカリキュラムの全体像が見えてくるにつれて、自分たちが作成したSBOsが徐々に精練されていくプロセスを体験できるのはモチベーションが上がるのではないかと強く感じました。そのためにも、タスクフォースの頃合いをみた適切な対応が大切だと実感しました。
- タスクフォースを数回経験しているため、自分達で作成するのはある程度スムーズにできると思うが、既に作られたものを修正するのはやはりいまひとつ慣れない。今回の作業や討論を経験し、改めて目標の大切さを感じることができた。目標は非常に大切なものであるが、重要な、より良い動詞を使用したとしても、文章があいまいであれば学習者には何も伝わらず、また、学習意欲も湧いてこないだろう。より明確な、分かりやすい目標を作成することがいかに大切かを改めて感じた。
- 個別のSBOがどのタキソノミーに分類されるかについて、参加者間において認識の違いがあることに気づいた。自分自身、コミュニケーションの実践に関するSBOsは技能領域であると認識していたが、実際は態度領域とすべきであるとの指摘を受けた。現在ヒューマニティ・コミュニケーション領域のモデルコアカリキュラム改定作業に携わっているが、私が把握する限り改定グループメンバー内はこうした認識は共有されていない。従って、改定後のモデルコアカリキュラム自体のタキソノミーの使い方が、本ワークショップで指摘されたものとの齟齬が生じる可能性もある。この点については薬学全体として共通認識にしておく必要があると感じた。

【セッション全体】

- これまでのワークショップでは、学習目標記述のための動詞（例）の下には、「(注) 上記は例示であって、必ずしもこれらに限定するものではない。」とありますが、出来る限りこの表示の中にある動詞を使用してもらうように参加者をお願いしてきた部分もありました。それは、方略を作成し評価する際にその方が賢明であろうという観点からであったように思います。しかし、2つのセッションを通じて、薬剤師らしく、また、特化した目標になっていないという現実を突き付けられたように感じました。現場で実習可能な目標である必要があるかと思えます。
- これまでのワークショップの中でも感じられたことですが、参加者が意図する内容と動詞が一致せず、こじつけるように動詞を探していたようにも思います。例えば、意図する領域は、態度の領域であるにもかかわらず、動詞だけを見ると技能の領域を示す動詞を使用しており、副詞を付けることでそれらしく作成することもありました。学習者にとって理解しやすいということを考慮するとそれなりの適切な動詞を探し出すのではなく、検討してもらい、評価が見合うか否かを考え、実習の現場に持ち帰った時に検証して頂くことを念頭に進めていく必要があるのではないかと痛感しました。
- 「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」については既に薬学教育モデルコアカリキュラムは出来上がっているにいまさら？何故という疑問を少し感じていました。同様の疑問についてグループ内のメンバーからも意見が出ました。「WSでカリキュラム作成を学ぶ意味は？」この点についてグループ内ではっきりさせておこうと、本題のディスカッションに入る前にアイスブレイク的な討論が行われました。私たちのグループでの解釈としてはコアカリキュラムを読み込めるスキルを身につけるため、あるいは日常の実習で、学生のニーズ、そして目標に対して効果的な方略や評価を組み立てられるスキルを参加者自身が身につけ、実践できるようになるためにカリキュラム作成を学ぶ意味があるとまとまりました。
- 本アドバンストワークショップに参加して、その目標がよくわからなかったことが不安であったが、実務実習指導薬剤師養成のワークショップのGIOについてもあらためて読んでみると、参加する薬剤師の先生方には漠然としたものであり、もう少しご本人にとって意義を見だしやすいようなものにした方がよいのではと感じた。
- WSでのプロダクト作成時にSBOsを考え動詞を選択する時は、配布された資料の中の動詞を領域別に当てはめて、本来の思いとかけ離れてしまう場面に遭遇します。その時に具体的な動詞を提案できない自分にも不甲斐なさを感じていました。今回のWSで医学教育における動詞が具体的で現状に近い動詞だったことに大変衝撃を受けました。今回の検討された動詞が例の中に増え選択肢が増えることを期待しています。実は私自身の不完全燃焼が減るという喜びの方が多いです。またタスクの手引きがあるとタスク経験の差でプロダクト作成が左右されることも少なくないのではないのでしょうか？学習目標での動詞の理解を深めるために、今後もアドバンストWSが継続されることを望みます。
- タスクフォースとしての経験も少なく、かつ1年以上WSからも離れている私にとっても貴重な経験が出来ました。第一に、皆さんの学生教育に対する熱い想いに触れることが出来ました。ディスカッションを通じ指導上の工夫、受入れた学生の様子、また大学教員の方の想いなどに触れ、認識を新たにすることが出来ました。第二に、ここ数年、薬剤師に期待される役割が急速に変化している中で、WSもこれに対応する変化を求められていることを実感出来ました。第三に、SGDは楽しい反面、やはり難しいということを実感しました。SGDの進め方、お作法を熟知している方たちが揃っているため、一度かみ合うと、ドンドン

とアイデアが形になっていきます。一方で皆さん学生教育には一家言ある方ばかりですから、時間を気にしつつも言いたいことはハッキリとおっしゃいます。今回のWSでは、この2パターンを経験し、大変面白く感じました。

- ▶ 合同討議で「動詞(例)」を「増やすべき」、逆に「少なくすべき」等、様々な意見をうかがったが、「どれも正しい」と思う。本来、使用する動詞は「選ぶ」ものではなく、その目標に合った動詞を考えて使用するものである。しかし、WS一日目の昼食後の目標のセッションで、突然、普段使わない用語が次々でてくるので、それだけで頭がいっぱいになってしまう。いろいろなことが整理できていないのに、プロダクトは時間までに作らなければならない。実際の目標のセッションでは、時間が足りずに領域と動詞の整合性がつかずに合同討議に持っていかなざるを得ない、ということがほとんどではないだろうか。今回、ある参加者が、「方略、評価まで進んでみて、初めて(当該グループが考える)目標の意図がわかることがある」「助詞によって、深さが異なり、場合によっては領域まで異なる」と述べられていたが、まさしくその通りである。今後もWSを(基本的に)同じ形式で開催するのであれば、個々のタスクフォースの能力によらないように、「動詞(例)」をさらに充実させるべきであり、全国統一の指針とまで行かなくても全国的に共通した方向性を示すべきと考える。その意味でも、今回のWSは、とても良い機会であり、これを繰り返し、ブラッシュアップしていくことで、カリキュラム・プランニングを目的とした認定実務実習指導薬剤師養成WSが有意義なものになるのではないかと。
- ▶ 午前中のワークショップは殆ど討議に参加ができなかった。理由は目的に対して自身が納得できていなかったことが挙げられる。各グループの発表で、1グループが動詞表を見直すことのメリット・デメリットを検討されていたのを聞き、そういった視点が大切だと気づきを得ることができた。
- ▶ 一番の収穫は、「コミュニケーションスキル」をどのように扱うか、これは今までタスクフォースの中でも意見が分かれていて、結果として受講者のプロダクトに効果的な介入(suggestion)ができない状況が続いており、なんとか解決をしたいと思っていたところです。今回のWSでその疑問に一定の指針が示されたことで、WSの際には事前にタスクフォースが統一した見解を共有することができ、参加者のプロダクトの向上にも寄与できると考えます。併せて、コンサルタントの中島さんの講演にもあったように、副詞、形容詞を効果的に使うことでより明確な目標が作成できるのではないのでしょうか。
- ▶ 私たちタスクフォースの仕事は、このように目標を具体的に示してよりわかりやすく文章化するという作業を理解してもらうために(今回のプロダクトの出来は別問題として)、どのように適切に、そして効果的に、受講者のSGDに介入するかが問われるのではないのでしょうか。過剰な介入?(誘導)をすると、結果的にプロダクトを作らされたと感じてしまいます。タスクフォースの適切な介入(suggestion)があつて、受講者にとっては「自分たちで作成した素晴らしいプロダクト」という満足感を持ってもらえるのだらうと考えます。これもタスクフォースの重要なミッションになるかと思えます。
- ▶ 個人的な意見ですが、会場では質問ができなかったのも、ここで意見を述べさせていただきます。ほかのグループで行ったセルフメディケーションのSBO3の見直しですが、OTC、漢方、サプリメント、健康食品は、やはり同列には並べない方がいいのではないのでしょうか。同列に並べると、全てのものに対して同じ深さを実習生に要求することになるかと思えます。セルフメディケーションの観点から考えれば、学生には、OTC、漢方に関してより深く学んで欲しいと私は考えます。
- ▶ 参加者としてワークショップに参加した時に、GIOとSBOsを考えるのに「学習目標記述のための動詞(例)」に頼ったことを覚えている。タスクフォースとして参加した時は、参加者のディスカッションが進まなくなった時や、参加者の考える目標をうまく表現する

言葉がみつけれない時に、「学習目標記述のための動詞(例)を参考にしてください」と介入していた。そこで先輩タスクフォースが「こんな言葉でも表せますね」と言われることもあった。なるほど！と思うが、私ではそこまでは難しいと感じていた。参加者が自分たちで検討して作り上げることが大切であれば、例は多いほど良いのだと思う。例から選んでしまっただけで参加者が考えないという意見もあるようだが、例から連想することで参加者の思いを表す動詞を見つけ出す糸口になると思う。

- 「技能」は「手・足を実際に使って動くこと」と定義を明確にさせていただき、なにを「技能」とするのが明確になった。今後、参加者からの質問に答えやすい。
- タスクフォースの経験を重ねる中で本ワークショップ(WS)に参加する機会を持てたことに感謝している。テーマが「動詞を考える」ことであったのを幸いに、全国からの参加者の胸を借りる気持ちで、「受講者は SBO を作成した際にその動詞が知識、技能、態度のいずれに属するか判断に迷う。何らかの“指針”があるとよいのでは。」と発言した。賛成の意見もあったが、「方略、評価と作業が進むと動詞の属する領域が変わる場合があるので、目標作成時に決めなくてもよいのでは。」とのご意見があった。私の言葉足らずの感があったが、受講者が動詞表を参考にするのは、多くの場合、動詞の案出に困った場合というよりも、自分たちが作成した SBO の動詞ほどの領域に属するのを知りたいという場合であり、その判断基準として“なぜこの動詞はこの領域に属するのか”という「根拠」を知りたいためである。本 WS では薬学的な動詞の提示や変更を主としたが、予め領域が明確になっているため、案出される動詞は誰が見ても属する領域は明らかであった。しかし、現実には逆で、むしろ、日頃の WS で領域の区分が議論となった動詞をあげ、どの領域に属するか検討した方がその動詞の属する領域の理由づけが明確になったように思う。本 WS では、「技能は運動技能のこと」で、スキル(skill)という英語が技能に相当し、首から下の移動を伴う動作を示すとの説明があったが、日頃の WS で受講者からよく出されるのは、動詞表にある「コミュニケーションする」がなぜ情意領域に属するのかという質問である。「資質(案)」にも(コミュニケーション能力)とあり、また、「コミュニケーションスキル」という語が示すように、何度も行なって“技術(technique)”を磨き、やがてそれが skill に到達すると考えると、この動詞は「技能」ではないかという趣旨の返答が帰ってくる。将来の薬剤師の「行動目標」が動詞の選定にかかることを考えると、単にタキソノミーの問題と片づけられないようにも思う。
- 今回の集会のグループワークで実感できたことは、SBO 作成で適切な動詞と表現を使用することでは、目標が求めている領域や深さが明確になり方略や評価にも良い影響を及ぼすということ。TF として適切な動詞と表現を参加者に気づかせ、引き出すことができれば、カリキュラムとしての充実度も上がり参加者の満足度も上がる可能性があることなどである。そして TF として「薬剤師として求められる基本的な資質」を熟知し、WS 全体の方向性の確認と意思統一を図ることの重要性を考えさせられた。
- 発表討論においては、あるプロダクトに対して、技能の評価にレポートは適していないのでは、と指摘をさせていただいたが、そもそも「報告書を作成できる」という SBO に対して、作成した報告書(レポート)で評価するのは当然のことであり、そのグループが提示した方略・評価はとても理にかなっていた。したがって、この SBO 自体がレポートで十分測定できる領域の目標なのではないか、という思いがあったのだが、うまく言葉の整理がつかず、つい目の前のタスクフォースに投げてしまった。そこでは行動領域の考え方について明解にご指南いただき、とても参考になった。説明のとおり、この SBO で示された行動が知識領域のスキルと考えれば納得がいく。最初のセッションでも議論になったが、領域の設定で悩むことが私自身も多い。思いをきちんと伝える目標を形にするためにどう考えたらいいのか、今後も模索していきたいと思う。

- する、できる。しない、できない。動詞によって文章から受ける印象は異なります。文章の持つ意味が変わります。どんな表現が人の心を動かす力を持つのでしょうか。学習のカリキュラムでは目標が非常に重要だとされておりますが、ワークショップでのカリキュラム・プランニングにおいても目標作りがとても難関です。私自身が参加した時を思い起こしても、全てが初めての作業でありさっぱりついていけず途方に暮れたことを覚えております。また、単語は出てきても文章にできないもどかしさ、気持ちを伝える表現の難しさも記憶にあります。誰が読んでもその意図がわかる目標・その思い（ニーズ）が伝わる目標を提示することは、学習者のモチベーションをあげる上でとても大切なことですし、その後の方略や評価においても重要な意味を持ちます。だからこそ動詞の選択は難しいのでしょう。ただ単にその言葉だけから知識・技能・態度と区分するのではなく、そこに込められた思い（ニーズ）を読み取りながら考えていくことが求められるからです。目標の「知識・技能・態度」は、それぞれが全く別々にあるのではなく、重なり合う部分を持ちながら存在するように思います。技術を技能にするためには知識の裏付けが必要です。態度も同様でしょう。そして、そこに効果的な形容詞や副詞を添えることで、より「生きた動詞」にすることができ、わかりやすいワクワクするような目標が見えてくるように思います。
- 知識・技能・態度の領域において、これまでにない動詞が数多く発表されましたが、特に態度の領域における新しい動詞が印象に残りました。中でも「寄り添う」「強調する」「受け入れる」などが、より良いSBOsの作成に貢献できそうだと思います。しかし、これらの動詞が参加者の中から出てこなければタスクはどうするのでしょうか。小生は「動かず」で行きたいと思います。プロダクトのテーマの解釈が誤っていなければ、多少文言の使い方が不適切であっても、立派なプロダクトができると考えています。問題はプロダクトのテーマが理解されていない時です。修正の方法はいくつかありますが、現在のテーマの「医療倫理」「チーム医療」「セルフメディケーション」については、そのWSの参加者全員が十分理解して帰っていただきたいのです。不十分なときは補講をすることも考慮してもよいと考えます。よいプロダクトとなっていることが、そのSはテーマをほぼ理解していると考えられますが、テーマは同じでも内容が年々変化しています。参加者の仕事の内容も変化します。タスクは、テーマの最新の内容を熟知し、常に参加者の議論がテーマから逸脱していないかを見守ることが必要です。また、小生は今回のアドバンストWSで得た、新たな動詞の活用の仕方と、介入するタイミングについて、これから考えたいと思います。
- 「評価の特異性」については、コンサルタントの中島先生からアドバイスを頂いた。すなわち、「評価」に於いては何を求めているかということをはっきりさせることが重要であり、適切な評価につながるということを強調されていた。同じ「挨拶する」でも、「挨拶の大切さを説明できる」は知識・解釈、「時と相手に応じて適切に挨拶できる」は技能、「いつも気持ち良く挨拶する」は態度を表すSBOsとなり、測定領域や深さをはっきりと区別して示すことができる。これまで「評価の特異性」についてはあまり触れてこなかったが、これからは、とても評価において重要な視点であることを参加者に説明できるようになったと思う。ぜひこのワークショップで得たことを今後のワークショップに活かしていきたい。
- 実際に作成すると作業時間70分があつという間に過ぎてしまい、日頃WSで時間をせかしている立場としては大変申し訳なく感じた。
- 今回のワークショップでは動詞の使い方SBOsの持つ意味が変わることが印象的であり、今後タスクフォースとして良いプロダクトができるよう使用する動詞をアドバイスしたいと考える。
- 今回のスモールグループディスカッションのテーマとして、GIOやSBOsの“動詞”の再検証がありました。私自身も、日本語には非常にグレーな表現が多く、動詞を知識・技能・態

度で明確に分別することは難しいと、タスクを行いながら感じていました。この考えは、参加されていたタスク経験者の方の多くで感じられておられたことであり、内心「ほっと」したのと同時に、動詞の細かな分別の必要性に疑問を呈さざるをえませんでした。また、ワークショップでは、学習者に参考として動詞の例示表を渡しますが、ほとんど検討テーマに対する知識がない学習者は、この表に左右されてしまうために、自由な発想を妨げているのではないかという意見もありました。

- 日本語は、英語よりも1つの動詞が多彩な意味を持つことが多く、これを知識・技能・態度というカテゴリーで区別することは不可能であるかもしれません。そのため、動詞にかかる修飾語をうまく活用することも重要であると思います。要は、作成された文章が、学習者に対して知識・技能・態度のどれを問うている・目的としているのかが大事であって、この動詞は知識、あの動詞は態度というカテゴリーはあまり意味を持たないと考えます。SBOsは、1つの行動目標を示すように作成することを明確にし、動詞一覧表などの例示に囚われない教育方法が今後必要であると感じます。また、これらを実現するためには、教育者（タスク）の能力向上・方向性の統一などを図ることが重要であると考えます。
- 「指導薬剤師認定のためのWSでカリキュラムの作成に用いることができる新たな動詞の探索」を目指したSGDは、近い将来薬剤師に求められる基本的な基質を参考にして、薬学の特徴をよく表現している動詞を見つけることが目標であった。実際に行なってみると、そのような動詞はなかなか見つからず、表現することの難しさを感じた。それでも薬学は、医学、看護学と異なり、自らの手で薬物やその使用プロトコールなどを「創る」ことが特徴的であると気づき、「調剤する」「調整する」といった、手を動かし、何かを作製する動詞を挙げるのができた。一方、SGD後の討論で、指導薬剤師認定のためのWSで今回挙げられたようなGIO、SBOsを的確に示すことができる新たな動詞を多く示すことは、参加者の議論に方向性を与えてしまい、自由度を下げてしまうのではないかと、との意見があった。確かに動詞そのものがかなり特徴的であると、おのずとその動詞を使ったGIO、SBOsが浮かんでくる可能性がある。おそらく、どのくらいの情報を示すかは、参加者のレベルによって変化させるのがそれぞれのWSを最も効果的にするものと思われる。指導薬剤師認定のためのWSでは、参加者がほぼ全員カリキュラム作成の経験がないことを踏まえると、できるだけ多くの動詞を供給した方が議論を始めやすいのではないかと考える。
- 指導薬剤師認定のためのWSにタスクフォースとして、参加させていただいている時に疑問に感じていた動詞と知識・技能・態度との関係性について指針を示していただいたことや、運動を伴ったもののみが技能の「スキル」であり、知的な「スキル」は技能ではなく知識の領域に属するという認識を、タスクフォース間で共有できたことがとても有意義な点であった。これが最終的な結論ではなく、さらに進歩した考え方が醸成されることもあるとは思われるが、これからのWSでは、この点について気をつけながらWS参加者の議論をよりよいものにしていくように努力していきたいと思う。
- 今回のテーマについて、普段SBOsを考えるとときに、決まった動詞にこだわり過ぎて、新しい発想のカリキュラムができなかったり、動詞がうまく見つからず、内容に矛盾がでたりしていたので、このような機会に一度考え直すということはとても大切なことだと思われ、実際にディスカッションしてみて、いろいろな新しい考え方、意見が出て、とても勉強になり、有意義な時間になったと感じました。
- 今回のディスカッションでは、今まで使われていた動詞について、薬剤師らしいものが少ないことに気づかされました。医師の場合は、診察・処置などに使われる技能の動詞が比較的多いのに比べ、「測る、計る、測定する」など、調剤や服薬指導などに使われる技能動詞が少ないことがわかりました。このような新しい動詞を組み入れることで、その後の方